

2 社会的な課題を多面的・多角的にとらえ、 考察することができる教材・内容

生徒が、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら多面的・多角的に考察することができ、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養えます。

地理的分野とSDGs（持続可能な開発目標）

世界地誌の学習 (p.47-128) では、章の導入ページで、州ごとの主題とともに、**SDGs (持続可能な開発目標)** の17の目標と関連する特徴的な**地球的課題**を扱うことを示しています。例えば、北アメリカ州の学習では、導入ページ (p.92-93) で「北アメリカで学習する地球的課題」として、「**多民族の共存の問題**」を取り上げ、該当ページ (p.100, 102-103) を示して導き、SDGsも意識しながら学習がより深まるように工夫しています。



〈地球的課題・ラインナップ〉

- ◇人口問題(アジア州) p.54-55
- ◇環境問題(ヨーロッパ州) p.76-77
- ◇人口・食料問題(アフリカ州) p.87-89
- ◇多民族の共存の問題
(北アメリカ州) p.100,102-103
- ◇環境・都市問題(南アメリカ州) p.111-115
- ◇多民族の共存の問題
(オセアニア州) p.121,123-125



▲ p.92-93

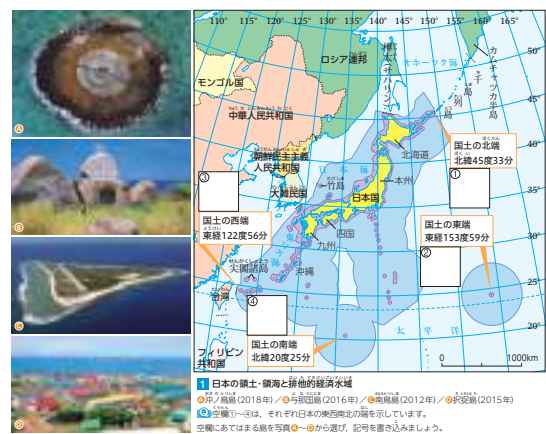
北アメリカで学習する地球的課題 ● 多民族の共存の問題 きょうぞん

アメリカ合衆国とカナダは、これまで世界から移民を受け入れ、多様な民族からなる社会をつくり上げてきました。民族や文化の多様性は、独自の新しい文化を生み出すとともに、社会や経済に活力を与えます。一方で、両国は建国以来、これにともなう問題も抱えています。ほかの国でも、差別や格差、少数派の人々の地位の向上など、多民族が共存するために解消しなければならぬ問題を抱えています。

p.100-102-103 ➡

領域をめぐる問題

見開き4ページを配当し、日本の領域に関する基礎的な学習から、北方領土、竹島、尖閣諸島といった日本の領土をめぐる対立や現状についてしっかりと学べるように、多彩な資料と丁寧な記述で理解を深めます。



② 日本の国土の広がり ▶ 日本の領域はどこまで

学習課題 2 日本の領域にはどのような特色があるでしょうか。



日本の国は、ユーラシア大陸と太平洋の間に広がっています。北海道、本州、四国、九州の弓状に並ぶ大きな島々と、その周囲の6800あまりの小さな島々によって成り立っています。北海道から沖縄県までの距離はおよそ3000kmで、国土面積は約38万km²です。

日本の国土の特徴として、山が多く平野が少ないことがあげられます。日本列島の中央部には3000mを超える高い山々が連なり、南北に長くかつ中央部の自然は豪爽に富んでいます。ユーラシア大陸とは近い距離にあるため、古くから活発な交流が行われて

2 面積が拡大した西之前
(2018年 東京都小笠原村)

海抜14mの活動した、大きく赤くなる火山口で、その1970年代にも活火山の規模があらわれました。

日本の国境をめぐるさまざまな動きを学習します

北方領土、竹島、尖閣諸島については、これまでの動きや現状について豊富な写真資料とともに記述しています。地図についても位置関係がとらえやすいように、日本海を中心に描いたものを掲載しました。【p.25】



のビザなし交流など民間での友好的な結びつきは続いています。

竹島周辺では、江戸時代の初めから日本人が漁

竹島と尖閣諸島 業を行ってきました。1905年に政府は、竹島

を国際法に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。

1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで

不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、

国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れ

多面的・多角的な視点からとらえる

例えば「ヨーロッパ州(p.66-81)」では、EUを中心に「国々の結びつき」を扱いますが、一方でイギリスのような**EU離脱** (p.71「地理の窓」)などの動きや一国内に見られる**独立運動** (p.80特設ページ)などにも触れました。物事を一面的にとらえるのではなく、情報を批判的に読み解き、**多面的・多角的**に考察する力が身につくように、各所で工夫を凝らしています。



「EU統合の課題－多様性をどう考えるのか」【p.80】